

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

おはようございます。登壇の許可を得ましたので、ただいまより3番山口裕子の一般質問を始めさせていただきます。

本日は、1番目に障がい者福祉について、2番目、庁舎並びに既存施設の活用について、3番目、男女共同参画社会づくりの推進について、お尋ねいたしたいと思います。

1番目に、障がい者福祉について。

昨年来、我が国の社会情勢は、アメリカのサブプライムローンに端を発した世界的な金融危機のあおりを受け、景気の低迷、メーカーの相次ぐ減産で、各企業の新規採用の取り消し、契約社員の解雇、正社員のリストラなどが起こっております。このことは障がい者の就労にも大きく影響を与えます。ただでさえ障がい者の就労は困難であります。また、新規就労の開拓などについても、各作業所など大変な努力がなされているところではありますが、本当に各作業所も大変厳しい状況に置かれております。また、作業所の内職的な仕事もあおりを受けて、昨年10月ごろから打ち切りになって、工賃も半減しているところでございます。

国は平成18年より、障害者自立支援法の施行により、知的障がい者の地域移行が進められておりますが、地域移行には本当に時間がかかります。佐賀県では平成22年度までに施設入所者の2割を地域移行させる予定で、今後、施設入所者中の軽度の知的障がいのある方は施設を退所しなければならないため、地域に知的障がいのある方々が急増する事態が考えられます。しかし、現状は障がい者が地域で安心して生活できる受け皿は少なく、地域住民の理解も十分でないところであります。

具体的な基盤整備と支援が急がれるわけですが、無理に地域移行を進めれば、犯罪の被害者、加害者になるおそれがあります。安永健太さんの死も、やはりここに理解がなかったために起こった事件ではなかったかなと思います。しかし、武雄市においては、ありがたいことに合併とともに自立支援法による受け皿を山内支所に共生ふれあいセンターとして設置していただいております。ことしの4月で2年になります。就労の場として、相談、支援と交流の場として、これから大変充実した福祉施設となりつつあると思います。まだまだこれからであります。障がい者の支援にとっては大変ありがたいものであります。ますますこの場所が発展していかなければならないと思っておりますが、この2年に関しての市長の思いというか、見解をお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

共生ふれあいセンターは、議員おっしゃったように、2年間たつわけでありますけれども、もともと3年、もうちょうど3年前になりましたら、市長選に志を立てて出るときに、さ

まざまなところを回りました。その際に、作業所で働いている皆様方の環境を考えたときに、これは何とかせんといかん、そういったことで、ずうっとそれが心の根のところに残っておりました。市民の皆さんたちのおかげで市長にさせていただいて、まず最初に、これは社会的に弱い立場の方々を、言い方が悪いかもしれませんが、日の当たるところで笑顔で働いてほしい、そのときに支所の活用を事務方から進言をいただきました。その中で私は、これはもう率直に言って予想以上であります。この共生ふれあいセンターを使っておられる皆さんたちが、もう場所が足りないところまでなっているということは、これは望外の喜びでありますし、また、私どもといたしましては、行政のできる範囲で、山内支所長もおりますけれども、今一生懸命支援をしております。そういった意味で、共生ふれあいセンターで働かれる方、そして、ここに来られる皆様方が本当にここに根づいてよかったと、山内町が福祉の拠点になってよかったと言っていただけのように、まだ精いっぱいまた頑張りたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にありがたいことだと思います。なかなか基盤整備が整わない中、自立支援法という制度ばかりが先走って、本当に障がいをお持ちの本人さんはもちろんですが、家族の方、本当それにかかわる民生委員さん方々、本当に不安がたくさんあるところなわけですね。やはり市長がおっしゃるように、率先してこういう場を与えていただけるということは本当にありがたいことだと思います。しかし、なかなか理解という点とか、そういう方に手を差し伸べていただける、それが普通に、自然にそういう社会になっていくことで、ここの支所の中にこういう場があるということは一番よかったんではないかと思います。

一応スタートして、徐々に見直していく、改善していきましょうということでした。あそこも事務的な場所ですので、なかなか作業の場としては使いにくかったりして、いろいろ要望も一応出ておりますので、2つの作業所のほうからは、やはり作業場が本当手狭になったということと、作業形態でないということで、少し改善をしていただきたいなという要望も出ております。

それと、私としても、一番障がい者が最初に戸惑うところは、相談窓口が本当に行きやすいところ、そしてスムーズに、ああ行ってよかったなって、行けるなという形のところが欲しいわけですが、今でも本当ありがたいことですが、やはりそこがオープン施設になっているわけですね。やはり個人の相談ということは、ましてや障がいを持つ方々はなかなか家からも出ることに不安があったり、普通に外に出るといことも困難な中、勇気を出してそこに行くには行けても、あそこの相談がオープン室であれば、とても気になるわけですね。あと、今の現時点では、作業所のほうと、つい立てはありますが、声も筒抜けということと、

プライバシーの面も充実していただいて、ぜひとも相談支援センターというところは個室が必要だということを要望されております。受ける側も、あと相談支援の方も、そのようにしていただけたらいいけどというふうに伺っておりますが、その件に関してはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そのとおりだと思います。相談支援センターの職員の皆さんや相談に来られる方々の話を率直に聞きまして、移転についてぜひやりたいというふうに思っております。なるべく早目のほうがいいと思っております。候補地としては、支所の個室のあるところ、あるいは保健センターがその候補に上げられていますけれども、何よりも私どもが決めるよりは、まず、相談にお越しいただく方、そして、相談をする方々の意見を重ねてきちんと聞いて、いい場所に移していく、来年度の早い段階で移したいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に、支援センターがさらに活用できるものになっていくことを望んでおります。本当に健常であればそういうこと、そんなところでもいかにかねとみたいなことを言われる方もいらっしゃると思いますが、本当に実際、障がいの子どもとか、自閉症の子とか、多動の子とかを抱えて、その場へ行くというときにどんなに困難であるかということを知りたいていというふうには思います。

あと次の同じ続きになりますが、2番目の就労支援についてお尋ねいたします。

昨日も上田議員のほうが、伊万里図書館の喫茶のことをお話しでしたが、前回、私も述べていたんですが、伊万里市は伊万里養護学校とかの施設があるのも1つと思いますが、とても行政も市民の方も障がい者に対する理解というか、受け入れというのがスムーズにできているなというのを感じます。就労支援で言わせていただければ、前回も上げましたが、伊万里市の図書館は、掃除は伊万里の里という施設に全部委託されております。本当それが大きな就労支援となっているわけです。それが一石何鳥もというように、市民の方が一生懸命障がいを持って掃除をしている姿を見るところで、本当にごみを落とす人が少なくなったということの結果も言われます。それと、障がいを持ちながらも働ける場があるということは、本当に本人たちが生きる活力というか、たくさんの方に褒めていただいたりとか、そういう姿を見ていただくことによって、生きる元気が出るという場でもあります。私も前、エポカルとか、そういう掃除、市が支援できるというならば、そういうこともできないかというふうに上げておりましたが、きのうの福祉喫茶あおぞらというのも、伊万里市の手をつな

ぐ育成会という知的障がい者の会の委託によって、そこが経営されています。しかし、内容とすれば、本当に微々たる賃金しか出ておりませんが、やはり親たちのボランティア、それと、子どもたちがそこでウエートレスとか、物を運んだりすることによって、働いているという元気をそこでいただいているわけです。

私も就労支援として以前も言うておりましたが、やはりこのように経済状況厳しいときは、本当どこも大変ですが、弱者に一番しわ寄せが寄らないように、やはり助け合いの心での支援が必要になってくると思います。身近なところを考えれば、山内町の支所の中に2つの作業の施設が入っております。そこも本当、昨年来より工賃が激減して本当大変だと言うておられます。ですから、市としてできることと私も思えば、ほかにいろいろ皆さんも提案があればと思いますが、庁舎の掃除とか、草取りとか、周りの周辺の掃除とかあれば、そういうのも就労支援の1つになるんじゃないかというふうにも思います。やはり庁舎の掃除など、できるものって限りがあるんですが、民間に委託されているお掃除の10%でも、20%でも支援していただけるという形ができないかなというふうにも思いますし、あと企業の方も、きのう、それは小池議員でしたが、バレンタインのチョコの箱包みとか、そういうのとか、本当にお仕事があれば、ぜひとも率先して提供していただきたいなというふうにも思います。今は本当に香典返しの箱に入れたお茶とか、ハンカチとか、そういうのを地道にされていて、もう何百作業しても100円とか、本当そういう世界なんです、やはり仕事をしているという喜びを持つためにも、そういうのが必要になってきますので、そういう支援はいかがかと思いますが、市長の見解をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、行政、武雄市役所におきましては、これは佐賀新聞等に大きく出ましたけれども、来年度、4月1日から障がい者の方を公務員としてお1人採用するということになります。その上で、行政としてできることはきちんとやっていくということ。

それと、もう1点が、例えば、清掃業務に障がいをお持ちの方というお話がありましたけれども、今現在、清掃会社そのものも障がいをお持ちの方を一定は雇用されているんですね。ですので、そことの整合性をきちんととらなきゃいけないということにもなります。実際、今市役所も文化会館等も清掃会社の方々がほかとは類を見ないぐらいに頑張ってもらっているんですね。ですので、そういうどういうふうに整合性をとるかというのは非常に悩むところであるんですね。ですので、できることはできると言いますし、できないことはできないと言う、私の性格上申し上げますけれども、ちょっとそこは少し、前、質問いただいて恐縮なんですけれども、もう少し実態の把握に時間を充ていただければと思います。

そして、私どもにできることは、もう1つ、いろんな市からのプレゼントみたいなのがあ

るんですね。3月の終わりに、例えば、議長と私は友好都市、姉妹都市のセバストポールに参ります。そういったこととか、あるいはいろんなレセプションとかあるときに、今、若楠作業所等の皆さんたちがつくられている見事な、例えば財布であるとか、いろんなクッションであるとか、そういったことを私どもが行政として買い上げて、それをプレゼントとしてお渡ししていくという、これ結構なパイになるんですね。そういったことも、やはりこれはほかとのバランスはありますけれども、障がいをお持ちの方々の所得の維持向上のためにも行政ができることの1つだと思っておりますので、そういったこともきちんとやっぱり考えていく必要があるだろうということで、暮らし部を中心にちょっと考えたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね。作業所でできた商品というか、そういうのも活用していただくということ本当にありがたいことかなというふうに思います。なかなか知らずに、あそこの支所に行って、わあこんなものをつくっておられるんですかとか、行かれた方は感心されて、何かお力になれるボランティアがあったらとか、そういうお声もかけていただけますので、本当にそれはありがたいことだと思います。

それと、やはり整理して、施設とかも受けられる仕事とか受けられない仕事もあるし、やはり障がいによっては、身体障がいの方たちはそういうことはできるんですが、やはりなかなか知的障がい者ということは仕事の幅が狭まるというか、なかなか難しかったりもしますので、本当できることからだと思いますので、そこら辺はよろしく願いいたしたいと思います。

あと本当に自立支援法というのは、施設にとっても大変厳しいものであるとも言われていますが、本当本人たちに言っても、家庭に恵まれている方たちはいいわけですね。両親がいてとか、兄弟も見てもらえてという方たちはいいんですが、やはり工賃というのは多くても、本当に1カ月一生懸命働いても、多い人でも1万円ぐらいにしかならないわけですね。軽度の方が福祉年金をいただけたら月に6万円ちょっとなんですね。その人たちが自立して地域でということになれば、うまくいってグループホームというのが利用できたとして、そのグループホームの利用料が今4万円から6万円ぐらいですね、3食そこでいただけて、そこで生活ができてですね。ということは、もうそれを支払ったら生活費はないわけですね。自分の物を買ったりとか、出かけたりとか、そういうお金がないわけですね。だから、就労支援をしないといけないんですが、なかなか工賃に結びつかないというところです。だから、1カ月作業所とか、いろんなお仕事頑張ってみても、せいぜい月に2,000円とか、3,000円の工賃とかですね。それでも、本人たちは働けるということ、外に出ていけるということで、

本当に元気をもらっているわけです。そういう中、やはり今、自立支援法の見直しが叫ばれているものだと思いますので、御理解のほどよろしく願いいたします。

それでは、次に行きたいと思います。

2番目に、庁舎並びに既存施設の活用についてお尋ねいたします。

きのうも浦議員からも出ておりましたが、先ほどの相談支援センターの件とかを絡めて、新しく庁舎とか、山内の庁舎周りの社協とか、保健センターの活用をいま一度ここで見直して、活用しやすいものにしていただきたいなと思って質問させていただきます。

まずは山内町の保健センターの活用ですが、やはり今度、山内の老人会からの要望で、老人福祉センターの件が出ておりますが、これも社協の改築が予定されていて、まずはそこだけで狭いということで、保健センターの活用も言われております。あと相談支援センターのそこで働いている方も、できれば保健センターのほうがやりやすいし、利用する方もあそこの方が行きやすいという声も出ております。市長が常々山内町のその周辺を福祉ゾーンとして見るならば、保健センターの活用は、育児サークルもあっておりますので、子育て支援という形でも、その中で十分な活用ができるんじゃないかと思っておりますので、保健センターの活用はいかがなものでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

保健センターの活用は、山口裕子議員と考えを一緒にしています。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

それでは次、それも含めて、それで今回、老人福祉センターということで社協の改築による老人福祉センターというふうに出ております。それでお尋ねしたいと思いますが、昨日も議員から話があっていましたが、13年ぐらいからどこの自治体にでも老人福祉センターというものがあちこち建ち始めたときに、山内町の老人会のほうから、ぜひとも山内にもこういう施設が欲しいということで、本当に10年ほど活発に活動されていたわけなんです、やはりこういう御時世になりました、合併とともにですね。そして、皆さんがもうそれ以上の厳しい中に、建設予定地だった土地も買っていた、設計もでき上がっていたということは御存じですが、やはりそれ以上のことはもう言われません。しかし、改築であっても、皆さんが本当に望んでいたものに近いものになるように、私たちも努力しなければならないと思っております。その改築が新築とは違いますし、場所も狭くなります。どうしたら一番活用されやすいかということ十分に練っていただきたいんですが、老人会の方々からも言われるのは、やはり次世代育成というこの時代に、本当総合福祉センターが一番望まれたわけです。

老人は老人、子どもは子どもとか、そういうふうに分けないで、総合でみんながそこで元気に暮らせるセンターというのがよかったんですが、そうはいきませんので、総合福祉センターと言って活動していたのに、自分たちだけが老人の場所としていただくのは理解をしていただけるだろうかという心配も持っておられます。それと、こんな厳しい時代に若い者に負担のかかるような施設にならんようにせんといかんという声も上がっております。

あと、もうこれだけ温泉とか、山内にも温泉ができました。一応中にふろの施設を改築ということになっておりますが、そのふろが本当に必要だろうかという声も上がっております。できれば、温泉のクーポン券でもいただいたほうがいいんじゃないかという声も上がっております。

あと、やはり若い次の世代に負担をかけないようにする施設であれば維持費の面も考えられるんですが、老人の方の医療費が軽減になって、介護保険が軽減になるように、元気に過ごせる場としてならば、それは本当に活用できるんじゃないかと思っておりますので、いろいろな意見が上がっております。社協の改築が有効になるようお願いしたいんですが、そこら辺で市長の意見をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

我々といたしましては、やはり一番重く受けとめなければいけないのは、一番施設を使われる山内町の老人クラブ連合会、私も何度かお目にかかっておりますけれども、この方々の御意見というのを一番重く承る必要があるだろうというふうに思っております。

その上で、それを支えるのは、山内町民の皆様方であります。そういった意味で、ぜひ山口裕子議員が先ほどおっしゃったような活発な御議論で、ぜひ高齢者の皆様方が使って本当にいいというようなものにしていただくように、意見の集約、統一をちょっとぜひ図っていただきたいというふうに思っております。

我々が一番困るのは、せっかくつくったけど、だれも使われなかったとかというのが一番困りますので、そういった意味で、もう少し時間がありますので、杉原議長や山口裕子議員、浦議員皆さんを初めとして、きのういただいた質問をいただいた浦議員を初めとして、意見集約について御努力をしていただきたいと、このように思っております。

私どもといたしましては、ちょっと財政上の理由で新たなものをつくるということではできませんけれども、本当に改修してよかったと、そして、先ほど山口裕子議員がおっしゃっていただいたように、保健センターや支所との連動も含めて、これはぜひ考えたいと思っておりますので、格段の御努力をお願いしたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

やはり私としても、市民病院でもそうであります、次の世代に負担になるような政策というか、ものとか、そういうのは本当今後は避けなければいけないと、できるだけ負担をないようにと思うわけです。しかし、おふろを備えて、そこで老人の方が元気に交流の場となって、医療費の削減とか、介護保険の削減とか、本当そこが有効活用されるならば、それも負担にならないことだと思うんですね。だから、経費的なことばかりを削減することを気にするのもないかな——ないかなという、できるだけ削減しないといけませんが、いろいろな考え方があるというところで、そういうことは老人会の方々も大世帯であります、意見が分かれていますので、そういう統一というか、本当にできてよかったなという老人福祉センターになるように私たちも頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

そこに併設というか、その周りの建設予定地だったところに駐車場整備が始まるわけですね。この駐車場整備できのうも少し出ていましたが、本当にこれはぜひお願いしたいことです。駅前の混雑の解消になるように、その駐車場が活用できるように、私は本当に屋根つきで乗りおりがそこでできるという、そして、できれば公園ぐらいのものも備えていただきたいなと思います。そのところは全体福祉ゾーンとして、老人の方とか、育児サークルの方とか、高校生、中学生が駅前からおりたり、中学生が登下校になったりとか、本当にその場がそういう場でありますので、ぜひともただっ広い駐車場だけでなく、ただでさえ建築予定地だったところがあくわけですので、ぜひともそこは駅前の混雑を避けるための施設として、あとは憩いができるような施設としてお願いしたいと思っておりますが、そこら辺の市長のお考えをお聞きしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょうどもう2年ぐらい前でしょうか、三間坂の大渡議員にある集会に連れて行っていただいて、これはもう何とかしてほしいということをお大渡議員も私も受けておりますけれども、いただいた記憶があります。この件につきましては、まず、私が思うのは、利用者の交通安全の確保がまず第一。そして、次に、やはり殺風景なものじゃいけないということがありますので、先ほど山口裕子議員からありましたような、できればポケットパークというか、公園みたいなものができればいいなと思っておりますけれども、まず、利用者の交通安全の確保をまず第一に考えたい。そして、ぜひこれも御提案をいただければありがたいというふうに思っているんですね。ですので、山内町の皆様方の御意向を踏んで、行政側としては最大限反映できるようにしていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3 番山口裕子議員

○3 番（山口裕子君）〔登壇〕

これも十分な検討をして、でき上がることを願っております。

それでは、山内の支所の庁舎のことでお尋ねいたします。

先ほど言いましたように、障がい者福祉のセンターというか、それが入っていて、拡張をお願いしているところではありますが、やはりそこは、もし箱物ができなければ、旧山内町には図書館もなかったし、本当交流の場がなかったということで、そこを活動団体の場にできればということも願っておりました。ぜひとも、内々では開放をされているかもしれませんが、もう本当に2階以上あいております。そして、3階はやっと商工会のほうの活用ができておりますが、議場もあいております。やはりもう市民の方が、市民課とか、総務課とか、その受け付けに行つて、この部屋があいておりますかという形で利用できる形をとってもらったらいかがかなと思うんですが、議場であれば、市長も本当にいろんなところに投げかけておられますし、いい使い方がないですかというふうに投げかけておりますが、1つ、若者とかよく年ごろになると、バンドを組んだりして、周りに騒音が出てうるさかたりしますので、そういうところの議場の活用ができないかとか、あとは何か詩吟とか、歌とか思い切り歌いたい方とか、そういう方にもう少し開放して、どうぞという形で、整備したりとかなんとかなにはお金かかりますので、今の状態で使えるというならば、どうぞという形で開放したらどうかということと、あと老人会の方たちが何でそういうセンターが欲しいかというのは、老人会の人たちが集うときに、やはり改善センターとかいろんなホールとかを借りようとしたら、いすとか、テーブルを出したり、直したりと、そういうのが本当大変なわけですよ。だから、備わったところで会合ができるということは、それと、1週間前とか、何週間前に予約をとったりしなくて、今あいておりますかということで使えると、本当の活用になっていくと思うんですが、ぜひともそういう使い方ですね。減免措置のできるころは無料でという形、あとは個人的なお謡とか、お花の教室とか、そういう形で使いたいという方は1人100円とか200円、わかりませんが、そういう形で1時間幾らというふうな利用の仕方を打ち出すと、それも収入にもなりますし、いつまででもどうしようかという形ではなくて、それをやられてみたらどうでしょうかということでお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと2つに分けてお答えしたいと思います。

まず、支所の空きスペースについては、今支所の総務課にお申し出いただければ、事前予約なしでも、あいていれば、市民団体の方が会議等に御活用いただけるようになっております。ただ、今のところ、管理の都合上、執務時間内、17時過ぎまででしたかね、でお願いし

たいというところであります。

そして、先ほど御提案のありましたバンド、とてもいいと思います。あと私、先週、大正琴の公演会に行きましたけれども、末藤議員もいらっしゃいましたけれども、行きましたけれども、非常にいいですね。あれ実際どこで練習されているんだろうと思っていましたので、できれば若い方々だけじゃなくて、大正琴は75歳以上の方も結構いらっしゃいます。そういった意味で議場は——この議場はちょっと違うと思いますけれども、山内の議場、防音設備も多分すぐれていると思いますので、そういった意味で、ちょっと一回使っていただきたいと。それで問題が出た場合は、またそこで対応しよう。要するに、これどうかな、だめかなというところではなくて、まず使ってみて、だめだったら、そのときにまた考えるという方向で検討したいというふうに思っております。

ただ、問題は、支所の場合にはいろんな文書等があります、そういった意味で、夜間のセキュリティの件については、ちょっとこちらのほうでも検討をいたしますけれども、まず、方向性としては、これをごらんになっておられるバンドの皆さんであるとか、オケの皆さんであるとか、一回ちょっと使っていただければありがたいというふうに思います。その制度設計を開始したいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

そのままにしていることが本当に一番もったいないことで、もう市民の皆さんはこういう状況の中、あれが欲しい、これが欲しいとか言うのを本当控えておられると思うんですね。それで、一番もったいないって、もうあれを有効活用しないといけないということが一番今寄せられている声だと思います。内々では何か貸してあるということですので、これを本当に皆さん、いい使い方があればという形で打ち出されたがいろんな提案があるし、始めてみるのが一番じゃないかと私も思いますので、よろしく願いいたします。

あとそういうことで、山内のことばかりになりましたが、しかし、あるものの活用だし、自分たちの財産ですね。本当に皆さんがもったいない、もったいないと言われております。だから、駐車場も有料で貸したりとか、駐車場も広くなりましたし、今後、駐車場をそこにつくられる場合も、有料で提案されたりとか、いろんな形で活用をしていただきたいなというふうに、投げかけていただきたいなというふうに思います。

あと、こんな厳しい中に、ちょっと質問するのはどうかなとも思ったんですが、いつも気になっているところですので、質問させていただきます。

行政視察とかに行きますと、いろいろな問題ありますが、庁舎に訪れたとき、やはりいろいろ行って、自分の我が庁舎に帰ってきたときに、ああ、もう40年以上たつこの庁舎を本当に業務に支障も出てきていないかなという心配も私はありますし、建設課とか、環境課とか

もプレハブみたいな形で道挟んでできているし、今回の議会で市長報告あったように、もう行政視察のお客さんが185回の1,673人というふうには報告もありました。何か、ああ、こがんとところで頑張りよらすねっていう——ああ、すみません。いいほうになるかもしれませんが、本当にもう少し職員の方もそうです。物すごく頑張ってくださいいております。何か息苦しくなるようなというか、そういう感じを、すみません、私だけかわかりませんが、でも、締めるところは締めて、節約するところは節約して、投資するところは投資というか、本当この庁舎は考えなければならぬんじゃないかというふうに思います。

障がい者の問題も1番目から上げておりますが、もうここは既に3階、4階には行けないところというふうにもうなるわけですね。エレベーターがありませんので、幾らお手伝いしますよとか、そう言っても、もうここは障がいを持っている方は行けないところというふうになってしまうんですね。だから、この時代にそういうことを考えてみれば、新市になって3年になりましたが、皆さんはどこかでそういうことを考えがとおりになるんじゃないかなとも思っていますが、本当に大変厳しい中、やはり本庁の新築の計画ですが、市長はどういうお考えがあるかなというふうに思っております。聞きたいところですが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私もさまざまところで仕事をしてまいりましたけれども、これほどおんぼろなところは私もないんですね。（「おんぼろじゃない、古い」と呼ぶ者あり）古い、古いという、多分言葉は一緒だと思うんですけどね、と思っております。ただ、ちょっと御理解をいただきたいのは、これ庁舎の今建てかえをするときには2つ問題点があります。

1つは、私が着任したときに、もう向こう3年間で財政破綻の危険性、可能性が非常に高いということで、財政危機宣言を出して、今さまざまな行政改革の努力をしている途上にあります。それともう1点が、もし、庁舎の建てかえを私どもが打ち出した場合に、果たして市民の皆さんたちの御支持を得ることができるかどうかということでもあります。あくまでも市民あつての武雄市政でありますので、そういった意味からすると、その御理解を賜れるかどうかということについては、私自身としては今のところ自信がありません。そういった意味から、やはり今あるものを活用しなきゃいけないということを思っております。

ただ、ちょっと気になるのは、耐震でありますね。そういった意味からすると、もう43年経過するということになるのと、もうますます耐震の上からすると厳しいと。これは市民の皆様方も多く使われているということでもありますので、その課題と行革の問題と世論の支持をきちんと統一ができるのかということについては、ちょっと今のところまだ難しいのかなというふうに思っておりますので、これは支所の活用も含めて、オール武雄市でちょっと今の

ところ考える必要があるのではないかというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にだれでもそう思っていることだと思いますが、あるものを有効活用して、節減できるところは節約して、本当にここに投資して十分に活用、その庁舎があることで、またさらなる発展というか、元気になることにつながると思いますので、ちょっと質問させていただいたわけです。行政視察に行つて、ああ、ここまで維持費とかかかっているのだとか、もうすごい庁舎もありますので、ああ、我が市はよかったなというふうに胸をなでおろすこともありますので、そこら辺含めてですけど、やはり今の耐震の問題もそうですが、障がいを持った方が行けない庁舎ということは一番問題があるかなというのも含めて質問させていただきました。

次に、3番目に移ります。

男女共同参画社会づくり推進についてですが、これも昨日、上田議員から出ておりました。先月の2月14日に武雄市男女共同参画啓発イベントが、「男女がよきパートナーとして共に生きるために」というテーマで開催されました。本当に毎年啓発活動として行われているんですが、これは旧武雄市のときから開催されていると思います。ことしはPTAの研修、それと飛龍窯の件、モーターショーとか、いろんなものが重なっていたと思うんですが、たくさんの方の参加がありまして、例年になく男性の方の参加も多くて、盛大に終わることができたと思います。本当に意識が高まってきたんじゃないかというふうにも思われます。

平成11年6月23日から男女共同参画推進基本法ができ上がり、それにのっとり武雄市も男女共同参画計画が策定されています。それは武雄市男女共同参画推進市民会議と武雄市男女共同参画推進本部会議という形で、市、各担当所管にそれが十分施策、実施がされるような形で今男女共同参画課もあるわけですが、一応人権の尊重と男女共同参画の意識づくり、男女共同参画の社会環境づくり、男女のパートナーシップの輝くまちづくりということで、目標値を掲げて、市長初め努力していただいているところであります。市の審議会、委員会など、女性参画促進を努めて進めていただいで、やはり平成18年は30.2%という形で進んでおりますが、市長にとって、今の男女共同参画社会づくりの思いというか、考えというか、状況ですか、そういう見解をお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

男女共同参画は2つの側面があると思います。

1つは、最先進国のスウェーデンのように、先ほどおっしゃいました、例えば、審議会で

すよね、私は公約で、例えば、審議会の女性の構成比率は40%という目標を立てております。先ほど議員御紹介があったように、今のところ、31%まで来ているので、こういったのは順調に進んでいるということ。だから、数字の問題と、もう1つは意識の問題だというふうに思うんですね。ですので、やはりこれは語弊があるかもしれませんが、地域によってはまだ男尊女卑の部分が結構あるなというところがやっぱりあります。そういった意味からすると、女性が変わることももちろん大事ですけども、それ以上に、男性が変わる必要がある、私も男性ですので、変わる必要があるだろうというふうに思っております。

その意識の改革、改善をどういうふうにするかというのが私にとってもまだ道半ばなんです。ですので、まず大事なのは、とにかく見える形で数を上げていくことですよね。上げていって、そうすると、必然的に恐らく男性の意識、なканずく女性の意識も変わっていくと思いますので、やはりこれはいろいろ御批判あるかもしれませんが、まず、比率をちょっと上げていくという施策をこれからも打っていきたいというふうに思っております。数が変われば質が変わっていくというのは、私の今の持ち得る見解であります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

男女共同参画といったら、女性だけの問題ではなくて、本当に誤解も多いわけですね。正しい理解をしていただきたいと思って、やはりこういう啓発イベントがあっていると思うんですが、女性が強くなるということではなくて、男女が自立できる社会の確立から始まっているわけですね。このような経済悪化の時代、家族を養う責任を男性に押しつけることだけでなく、多大なプレッシャーを与えて特に男性を追い詰めることになり、働き盛りの40歳から50歳の男性の自殺者がふえているとか、男は泣き言を言ってはいけないとか、男は強くなければいけないという教えられたことが、本当に中学生、高校生で悩む子どもたちも男の子はスクールアドバイザーのところに行けないわけですね。そこに来るのは女の子が多いわけですね。というふうに、何かそういう慣習とか、男は泣き言を言ってはいけない。だから、早く解放をされないわけなんですね。だから、多大なプレッシャーを感じて、こういう形が社会的に起こっているという、こういうところの啓発というか、そういうことも含まれているわけなんですね。だから、やはり大事な啓発なんですが、本当に男女共同参画社会づくりというのは、女性のためだけではない、女性のための政策ではないということに気づいていただきたいと思うんです。男女が互いの人権を尊重しつつ、責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮する社会をつくっていかうという形でイベントというか、啓発がなされているわけでありまして。

そこで、一番私が今回、何でここに上げたかというのは、本当にどうしてもお尋ねしなけ

ればならないことがありました。それは、今始まっているごみ処理広域基本計画の中で、佐賀県西部広域環境組合議会のメンバーに女性が一人も入っていないということなんです。22人中すべてが男性なんですね。この構成されたのも本当に19年からなんですよね。もう既に男女共同参画、先ほど言いましたように、推進会議とかたくさん用意されていて、担当部所管、部署は実施計画に基づく施設、政策、事業の実施をしなければならないというふうにうたわれているんですが、どこかがこういう意識がなかったために、このようなことになったと思うんです。4市5町で13人の女性議員がいるわけですね。その中に、ふたあけてみれば、すべてが男性だったということです。本当に女性たちも議員として頑張りたいというのは、やはり自分の身近な生活の中の環境、ごみ問題とか、本当にそういう問題を真剣に考えているわけでありまして。だから、男性とか、女性でそれが不得意とか、得意ではなく、基本的に考えて、この構成がどうしてこういう形になったのかということをお尋ねしたいと思うんですけど、市長、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと私が答えるのが適当かどうかよくわからないんですけども、基本的に今回の西部広域の議会、私は副管理者として、伊万里市長さんが管理者、私が副管理者として入らせていただいておりますけれども、確かに男性ばかりなんですね。執行部側も男性ばかりなんですね。これどうやって決まったかということ、さっき古賀副市長に確認をしたところ、やはり各構成団体でそういうふうな推挙が上がってきたということでもありますので、結果的に今、山口裕子議員がおっしゃるような形になったということでもあります。ですので、もうそれ以上の答弁はちょっとできかねます。すみません。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に本年度も男女共同参画社会づくりという形で予算が174万円上がっております。毎年毎年こういう形で男女共同参画、本当にバランスのとれた社会づくりということで意識啓発、本当に国も挙げてこういうことはいけないという形でなっているわけなんですね。だから、多分そこを計画なされるところに、そういう意識がない方たちが一つも気づくことなくおろされたということ、1つはですね。それを受ける側も、それでは、市長と議員2人になっているからということだったと思うんですが、よそからどういう人が出るかどうかわからないけど、そういう形でうちは副市長とか、担当の委員長とか、そういう形で出されたと思うんですが、その以前に、この構成メンバーというのをこれだけ男女共同参画というか、バランスのとれた社会というか、そういう意見が、ごみだからじゃなくって、いろんな意見が

出ることが本当に審議がなされていくと思うんですね。そこに13人の、4市5町女性議員がいて、だれも一人も入ることができなかったということですね。

それと、それに私たちも後からこういうことを知るわけですから、もっとチェックを先にする方は伊万里の議員さんたちは女性が入るようにというチェックもされて、このような状態が起こったそうなんです。だから、ぜひとも何のための男女共同参画かというのがあって、毎年予算組まれて、こういうことがなされていて、こういう所管でこういうことが起きているということは本当に納得がいかないというか、どこで私たちはチェックをするんだろうというふうに思います。本当にやっぱり議会のメンバーが全員男性ということで、大変ショックを受けたわけなんです。市各担当所管とか、それがおりてくるところにこういう意識がないと、こういうことが起こっていくんじゃないかというふうに思います。どこに原因があったのかをきちんと精査されて、今後はぜひともこういうことがないように、ありがたいことに、傍聴行かれた方は、武雄市の出ていらっしゃる議員さんたちは武雄からはよく意見をいただいていますよとかおっしゃっています。それで、本当にバランスのとれた政策というか、そういう意見が出るためにも、そういうことの見直し、チェックをしていただきたいと思います。

やはり勘違いした男女共同参画というか、そういうとられ方が私は多いかなというふうに思っておりますので、ぜひともこういうことを御理解して、今後このようなことがないようにチェックができて、行き届くようにしていただきたいと思いますが、もう一度市長の答弁をいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、御理解いただきたいのは、この西部の広域の環境組合議会においては、もともとモザイク、結果としてこういうふうになったということをご理解していただきたいと思うんですね。

今私どもが掲げる、例えば武雄市の男女共同参画課は、例えば審議会のメンバーであるとか、さまざまところに比率がきちんといっているかというのを見ているわけですね。ですので、ある意味、私がぜひお願いをしたいのは、これ情報の出し方が悪かったのかもしれませんが、議会があるときは議員の選出ですよ、そのときは、ぜひやはり御意見をその時点でおっしゃっていただくありがたいというふうに思っているんですね。そうすると、その選出に当たっても女性の皆様方の意見もその時点では取り入れやすいというふうにも思っております。

そういった意味で私どもが反省しているのは、西部広域の関係におきましては情報提供の仕方がやっぱりちょっと稚拙だったのかなということは思っておりますので、山口裕子議員

の思い、御意見をいただいて、できる範囲でなるべくこういう構成をしなきゃいけないときとかというのは早く情報を出していきたいと、このように思っております。

いずれにいたしましても、もう1つぜひお願いがあるのは、いろんな審議会とか会議の構成メンバー見ていますと、非常に女性の比率の高い会議と低い会議というのが物すごく2つに両極端に分かれるんですね。見てみると、比率の高いところは積極的に女性が出ておられる。比率の低いところはもうお願いされてお願いされて、その比率になっているということでもありますので、ぜひ参加をどんどんしていただくということも求められているのではないかなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に市長も後からわかるというか、チェックできないところ、私たちもチェックできないわけなんですね。よくそれを見れば、実施計画に当たる担当所管、そのところの意識がもう既にそこにバランスよく入らなければいけない、30%以上になっている、目標値は40%になっているというところはわかっていらっしゃったら、こういうことにはならなかったと思います。

皆様も武雄推進プラン2008というふうに、このようにお金もかけて男女共同参画推進を進めておられますので、どうか一人一人が意識改革をして、こういうことがあればチェックできるような形にしていきたいと思います。

本当にすべての人が平等に参画できて、明るく元気な武雄市であることを願って、私の一般質問を終わらせていただきます。